



瀬戸内海の見えない変化を科学で読み解く

農学部

助教 中國 正寿

研究シーズの概要

瀬戸内海は、多くの人が暮らすすぐそばにある「人の暮らしに近い海」です。だからこそ、陸から流れ込む栄養塩、人の活動、気候変動、ごみなどの影響を受けやすく、その変化を正しく調べるのが大切です。私たちは、海の中で栄養がどのようにめぐるか調べる物質循環研究、海の世界を食物連鎖を支える植物プランクトンの働き、そして近年問題になっている海洋プラスチックの行方まで、瀬戸内海で何が起きているのかを幅広く研究しています。

特に注目しているのは、植物プランクトンがつくる「栄養の質」です。海の豊かさは、植物プランクトンの量だけでは決まりません。植物プランクトンがつくるEPA（エイコサペンタエン酸）やDHA（ドコサヘキサエン酸）などの脂肪酸は、動物プランクトンや魚、そして私たち人間の栄養にもつながっています。そこで、瀬戸内海のプランクトンに含まれる脂肪酸を調べ、食物連鎖を支える栄養の質がどのように変化しているのかを明らかにしようとしています。

また、海の変化は、データだけでは社会に伝わりにくいという課題があります。そこで、芸術家と協力し、海底の泥、観測データ、プランクトン、分析機器などを作品や展示に変える取り組みも進めています。目に見えにくい海の変化を、人が感じ、考え、行動するきっかけとして伝えるため、科学と芸術を融合した新しい研究の形を探っています。



秋ごろに得られた植物プランクトンの写真（左）、サイエンスとアートの協働のプロジェクトで実施した展示の様子（中央）、全域の藻場調査に参加したときの様子（右）

【利用が見込まれる分野】環境教育、海洋教育、水産業、沿岸環境管理、博物館・美術館展示、サイエンスコミュニケーション、環境政策

研究者プロフィール

中國 正寿



／ ナカクニ マサトシ

メールアドレス
所属学部等
職位
学位
研究キーワード

nakakuni.masatoshi@kagawa-u.ac.jp

農学部

助教

博士（工学）

瀬戸内海、植物プランクトン、物質循環、脂肪酸、
海洋プラスチック、科学と芸術、サイエンスコミュニケーション

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで

問い合わせ番号：AG-26-003

直通電話番号：087-832-1672

メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp